

想 青 学 園
(後 期 課 程)

学校生活についてのアンケート調査結果

福山市教育委員会事務局
管理部学校再編推進室

2024年（令和6年）7月

目 次

1	アンケート調査の概要	1
2	第 1 回アンケート調査報告後の取組	2
3	第 2 回アンケート調査の結果	
	(1) 考察及び今後の取組	
	ア 生徒	4
	イ 保護者	7
	ウ まとめ	1 0
	(2) アンケート集計	
	ア 生徒	1 2
	イ 保護者	1 6
	ウ 主な記述回答	1 7
4	アンケート内容	2 4

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

少子化に伴い学校が小規模化する中、子どもたちに主体的・対話的で深い学びを通して、必要な力「21世紀型“スキル&倫理観”」を育むことができるよう、一定の集団規模のより良い学びの環境づくりのため、学校再編に取り組んでいる。

2022年（令和4年）4月に開校した想青学園において、生徒及び保護者を対象に行ったアンケート調査から現状を把握し、成果と課題を明らかにすることで、これからの取組に活かしていくものとする。

なお、想青学園は、2023年（令和5年）2月にアンケート調査を実施しており、本調査は2回目である。

(2) 対象者（2024年（令和6年）2月時点）

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
生徒	212	168	79.25
保護者	212	71	33.49

(3) 調査方法

生徒 … 担任教諭からアンケートの目的や問いについての説明を聞き、学習用端末を活用して回答

保護者 … アンケート（依頼文）に記載のURL、QRコードから回答フォームにアクセスし回答

(4) 調査期間

2024年（令和6年）2月1日から同年2月16日まで

2 第1回アンケート調査報告後の取組

開校1年目、再編によりめざす姿である「多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ」ことに向け、地域の方々の温かい協力を得て、特色ある教育を行う中で、子どもたちは、それぞれが努力し、着実に力を付け、成長していった。一方で、学校の取組への要望等が個別具体に出されたことから、学校と連携し、次のように取り組んだ。

(1) 教育内容の充実

約9割の児童が、授業について肯定的な回答をしていた。一方、約1割が否定的な回答をしていたため、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いを持ち、自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・子どもと教材を主語に、教材研究に重きを置いた授業を実践した。
- ・内海・沼隈の多彩な地域資源を素材に探究的に学習する「S O S E I 学」で、地域の良さや課題を見つけ、それを地域に発信したり、解決策を実行したりした。

(2) 人間関係づくり

友だち関係が理由で学校が楽しくないと感じている生徒がいたため、子どもたちが日常的に学校のあらゆる空間でふれあいながら学んでいけるよう、関わり合う場や環境を意図的に作り、学び合う集団づくり、お互いの違いを認め合える仲間づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・体育大会やS O S E I 祭などの学校行事で全校児童生徒が一緒に活動する、ランチルームで1年生と6年生が一緒に給食を食べる、1年生から9年生までの20人程度が一つの班になって自己紹介や9年生が考えた様々な遊びを楽しむ「縦割り交流デイ」など、児童生徒が関わり合う場、交流する場を様々設けた。
- ・言語・人文社会・数学・理科・音楽・アート&クラフト等のメディアスペースに置く教材等を工夫した。

(3) 地域とのつながり

「S O S E I 学で地域のことを知ることができる。もっと地域住民との関わりがあった方がよい」といった意見を踏まえ、子どもたちが地域に出て、体験を通して学ぶ教育活動の充実に取り組んだ。

(主な取組)

- ・S O S E I 学で、地域や地元企業等から「たくさんの人に内海の海を大切にしようという思いを持ってほしい」「山本瀧之助といった人物をはじめ地域の文化や歴史の良さを地域に発信してほしい」などのミッションを受け学習を進めた。

- ・ S O S E I 祭において、地域から依頼されたミッションに対して、地域の課題解決に向けて考えた取組をプレゼンしたり、アイデアを商品化して販売したりして、参加者から意見・評価をもらった。

(4) コミュニティ・スクールを活かした教育活動

コミュニティ・スクールの理解が進んでいないことから、学校運営協議会において、学校運営方針について議論を重ねながら教育活動を進めた。

(主な取組)

- ・ S O S E I 学について、年間カリキュラムをもとに目標と育成する力を共有した上で、学びをより豊かなものにするためには何が必要か、表現力・共感力・チャレンジ精神といった育てたい力を付けるためには何ができるかを協議し、具体のミッションや体験活動を提案した。

3 第2回アンケート調査結果

(1) 考察及び今後の取組

ア 生徒

◆学校生活について

- 「学校が楽しい・どちらかと言えば楽しい」 93% (84%)

◆授業について

- 「新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 92% (91%)
- 「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 95% (92%)
- 「『分かった』『できた』と実感することがよくある・どちらかと言えばある」 86% (86%)

◆義務教育学校について

《新規》

- 「1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがよくある・どちらかと言えばある」 77%
- 「かかわる つながる」を学校生活の中で実感することがよくある・どちらかと言えばある」 59%

◆部活動について

- 「部活動に参加している」 93% (60%)
- 「部活動は楽しい・どちらかと言えば楽しい」 87% (88%)

※ () 内の数値は1回目のアンケート調査における回答の割合。以下同じ。

◆学校生活について

○考察

9割以上の生徒は「学校が楽しい」と答えている。その理由は「友だちと会って話ができる」「授業も部活も楽しい」「友だちとたくさん学び合い、コミュニケーションを取れるから」「新たな知識を得られることや、友だちとの教え合いや交流を通して将来目指す人物像に近づくことができる」「いろんな先生と勉強できて楽しい」などであった。

環境が大きく変化した旧内浦・内海・能登原・常石小から進学した生徒（7・8年生）と旧内海中の生徒（9年生）については、91%が「楽しい」と答えている。その理由は「いろんな人と話すことができる」「話せる友達がクラスに多いから」「自分のできる事が増えると嬉しいから」「授業で新しい知識を知ったり、みんなで話せたりするから」「部活が楽しい」などであった。

1割弱の生徒は「学校が楽しくない」と答えている。その理由は「あまり仲が良くない人といたりすると気まずくなる」「勉強の内容がよく理解できないし、勉強を教えてって言いづらいから」などであった。

生徒の多くは学校生活を楽しく感じていることが分かる。義務教育学校のメリットを生かした集団づくり・仲間づくりが進められる中で、子どもたちは伸び伸びと

学んでいる。

○今後の取組

学校が楽しくないと感じている生徒には、その理由を踏まえ、子どもの様子を見ながら、対話を大切にした個別の支援を行っていく。

◆授業について

○考察

約9割の生徒は「新しいことを知ったり、調べたりすること」や「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすること」が楽しい、『分かった』『できた』と実感すること」があると肯定的な回答をしている。その理由は「友だちとの学び合いは、お互いの理解を深めることに繋がる」「班での活動は自分の意見を言える時や、班の人と意見を交流する中で見出した新たな視点が入ってくるからいい」などであった。

学校では、全ての学級で「子ども主体の学びづくり」に向け、友だちと対話し、自分の考えを深めたり広げたりする授業づくりに取り組んでいる。S O S E I 学では、フィールドワークやインタビューを通して地域の人々と交流し、地域のためにできることを考え、実践することに取り組んでいる。

子どもたちは、授業を楽しく感じ、学ぶ過程で「分かった・できた」と実感していることが伺える。

約1割の生徒は否定的な回答をしている。その理由は「ずっと教えてもらうだけではなく、自分で考えて応用を解いたりしたい」「苦手な教科になるとやる気が無くなるので授業の中にもっと面白い要素を入れてほしい」「もっと積極的に発表させた方がいい」「授業中に私語が多い」などの理由であった。

○今後の取組

改めて、子どもたちの学ぶ姿を見る中で、教師が一方向的に教える授業になっていないか授業を振り返るとともに、S O S E I 学や各教科をつなげながら、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いをもち、自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいく。

◆義務教育学校について

○考察

約8割の生徒が「1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校についていいなと思うこと」があると肯定的な回答をしている。その理由は「関わったことのない人やみんなと関わることができるから」「上級生が下級生にお手本を見せられるから」「1年生から9年生までが団結して一つのことをしているのがいい」「授業で学んだことを他学年に教えることで、いい経験になり学びが深まる」などであった。

約2割の生徒は否定的な回答をしている。その理由は「前期と後期でそれぞれにいい影響もあるけど悪影響も多いし統一感が出ない」「授業時間がずれていて、うるさいときがある」などであった。

また、約6割の生徒が「想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学園生活の中で実感すること」があると答えている。その理由は「前期と後期で一

緒に楽しめる遊びやイベントがある」「困っている人がいたら、すぐに助ける人がいる」「S O S E I 学では校内だけでなく、地域と関わる授業がある」などであった。

1年生から9年生までが一つの校舎で学校生活を送り、日常的な異学年交流によって下級生は上級生を手本にし、上級生は下級生を可愛がっている様子が伺える。S O S E I 学や学校行事など多くのふれあいを通して、子ども同士がつながりを深めながら成長していていることが分かる。

○今後の取組

前期課程と後期課程の児童生徒が、互いを尊重し、相手の立場に立って考え行動できるよう取り組む。

また、『かかわる つながる』を大切にした学校運営・教育活動を進め、義務教育学校や再編した地域の良さを、体験や対話を通して実感できるよう取り組む。

◆部活動について

○考察

9割以上の生徒が部活動に参加し、そのうち約9割の生徒が楽しいと答えている。その理由は「自分のスキルがちょっとずつ向上しているのを感じられた」「自分の好きなスポーツができるから」「お互いを高め合うことができた」などであった。

自分がやりたい部活動を、目標に向かって仲間と切磋琢磨しながら取り組む中で、自己の力やチーム力を向上させ、達成感を味わっている。

少数であるが「練習が面白くない」「自分は本気でも、他の人が本気じゃない」などの意見もあった。

○今後の取組

顧問や部活動指導員は、生徒の意見も聞きながら練習内容を検討するなど、生徒が主体的に取り組む、活力ある活動にしていく。

記述回答

(想青学園で学ぶようになってから気が付いたこと(変化)、自分でも努力したこと)

○考察

「人と関わるが増え、コミュニケーションが取れるようになった」「低学年との関わりが苦手と思っていたが、学校生活を共有することで関わることの楽しさが分かった」「いろんな学年と関わることで、いろいろな価値観が生まれる」「人数が増え、年齢の幅も広まったことでどのような話し方なら伝わるか、困っている人はいないかなど、より一層周囲のことを考え行動できるよう努力した」「S O S E I 学などで地域の良さを自らアピールしていくことで地域の活性化につながることに気付いた」などと答えている。

多様な人とコミュニケーションを図り、学び合いを通して刺激を受けながら、意欲的に学校生活を送っていることが伺える。

(困っていること)

○考察

「校則を守っていない人がある」「授業をまじめに受けてない人がある」「もっと他の学年と関わる機会があったらいい」などと答えている。

○今後の取組

状況を把握し、個別又は全体に必要な取組を行っている。今後も、子ども同士の意見交換や交流の場を増やす中で、自ら考え行動し、他者を大切にする仲間づくりを進めていく。

(前の学校のときよりも学校の規模（集団規模）が大きくなって感じていること)

※ 9年生の旧内海中学生

○考察

「トラブルが起こったり、とっつきにくい人もいたりするけれど、友だちが増えて楽しい」「自分と合わない人や合っている人などがいて、みんな個性があふれているからいいなと思った」「内海中学校ではできなかった授業などもできた」といった意見があった。

多様な友だちと関わりながら、コミュニケーション力や社会性を育んでいることが分かる。

イ 保護者

○「子どもは学校生活を楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている」 89%（88%）

《新規》

○「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがよくある・どちらかと言えばある」 69%

(学校生活)

○考察

約9割の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしている」と答えている。その理由は「学校での出来事や友だちの事をよく話してくれる」「勉強は充実しているように見受けられるし、友だちとも楽しく過ごしている様子」などであった。

約1割の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしていない」と回答し、その理由は「友だちグループができて中へ入りきれず、学校の気質に馴染みきれていない」などであった。

保護者は、子どもから話を聞き、その表情や態度から、楽しく過ごしていると安心されたり、馴染めていないと心配されたりしていることが分かる。

○今後の取組

学校には、オアシスルームやクラスブース、メディアスペースなど、子どもたちの居場所となる空間を様々作っている。環境に馴染めていない生徒や教室にはいりづらいと感じている生徒には、引き続きそうした場所も利用し、対話をしながら個

に応じた支援を行っていく。

(義務教育学校)

○考察

約7割の保護者は「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校についていいと思うこと」があると肯定的な回答をしている。その理由は「前期課程の児童は後期課程へのイメージを持ちやすく、ギャップも少なくスムーズに後期課程に移行でき、後期課程の生徒にとっても前期課程の子たちと接することで視野を広く持てる」「小さい学年に関わることで優しさや思いやりなどが育つ」「違う年齢の子どもが集まってくるため、それぞれの立場に立った考え方ができる」「上級生を見て、良いことも良くないことも学び、考えて行動するから」などであった。

約3割の保護者は否定的な回答をしている。その理由は「体育祭など出番が少ないのに開催時間が長い」「学習発表会や体育祭（運動会）を前期・後期一緒に実施するため、学校行事の内容が薄くなった」「環境の変化がない期間が長くなるので、気持ちの切り替えが難しくなるのではと思う」などであった。

保護者は、日常的な異学年交流により、上級生と下級生相互に良い効果があることを感じていることが分かる。

○今後の取組

学校行事や式典については、形式は様々であっても、全児童生徒が関わり合いながら学ぶ良さを実感できるような取組を進めていく。

記述回答

(教育活動（授業、行事等の取組）について、良いと思うことや課題に思うこと)

○考察

良いと思うこととして「好奇心を揺さぶられる教育内容で、自発性を伸ばしてもらえそう」「特にS O S E I祭は、地域と一体になって作り上げ、大いに盛り上がった」「行事がいっぱいあり、子どもの学校の様子が見られて良い」「小中一貫校で、全学年一緒に行事ができる」などの意見があった。

課題と思うこととして「せっかく前期と後期で同じ敷地、同じ校舎なのにふれあいや交流が少ない」「運動会を前期課程と後期課程一緒にするのは無理がある」「発表会も運動会も一緒に開催のため、学校行事の内容が薄くなった」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、地域の方々の協力を得ながらS O S E I学や各教科等の教育内容の充実を図り、「子ども主体の学び」を推進するとともに、義務教育学校のメリットを生かした教育活動を進めていく。

前期課程と後期課程の児童生徒間の交流ができるよう、9年間のカリキュラムを編成・実施している。学校行事のあり方については、全校で行うもの、前期・後期で分けて行うものなど、行事の目的や教育効果、子どもや保護者の意見等を踏まえる中で、カリキュラムを改善していく。

(想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学園生活の中で実感すること)

○考察

「S O S E I 祭などで、児童生徒がみんなで一つの事に取り組む姿や、それに私たち親もかかわることができたこと」「学校行事への参加がオープンであること」「能登原とんどへの参加や地元企業との関わり」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、『かかわる つながる』を大切にしたい学校運営・教育活動を進め、保護者に主体的に教育活動に参画していただけるよう取り組む。

(想青学園で学ぶようになって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、その時保護者がされたかかわり〔応援や励まし、教員への相談〕など)

○考察

「課題にしっかり取り組めるようになり、友だちがたくさんでき、自分の気持ちもはっきり言えるようになり、思いやりの気持ちが持てるようになってきている。」
「下級生に発表することによって、自分の意見を分かりやすく表現することができるようになった」「苦手なことにも挑戦するようになった」「上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生を敬う態度が自然にできている」などの意見があった。

子どもの成長を温かく見守り、頑張っていることを褒め、励まし、応援してくださっている保護者の姿が伺えた。

(今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと)

○考察

「学校の特色が外部にしっかり伝わるといい」「先生には、主体的に学ぶ姿勢をフォローしてほしい。無理と言われたことで、自分の意思で進むことができないことがある」「先生に言っても分かってくれないと初めから諦めの姿勢になること」などの意見があった。

○今後の取組

学校の特色については、S O S E I 学の内容や学校行事、コミュニティ・スクールの活動などを、様々な機会をとらえ、対面で、また、ホームページや学校だよりなどを通じて、積極的に情報を発信していく。

子どもへの関わり、授業の進め方については、改めて、子どもたちが自ら考え、意欲的に学ぶことができるよう、子どもたちの「やりたい」「知りたい」という思いを大切にしながら教育活動を進めていく。

(前の学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなって感じていること)

※ 9年生の旧内海中生徒の保護者

○考察

「人間関係を築くことが大切」という意見があった。

保護者は、子どもが多様な友だちと関わり、人間関係を築きながら成長している

姿を通して、学校規模が大きくなったことを肯定的に捉えている。

(コミュニティ・スクールについて、教育活動を充実させるため、保護者（地域）としてどんなことができると思うか、また子どもたちの学びにどうかかわっていききたいか)

○考察

「学校行事で地域の人と一緒に学校周辺、通学路を清掃するなど、地域参加の親子イベントがあれば、先生、生徒、地域の人とより親密になると思う」「子ども達が安全に学校生活を出来るように地域全体で見守り、道路などの草刈りをし、安全に通学できるように支えたい」「子どもたちの学力向上のため、放課後や土曜日に寺子屋を開く」などの意見があった。

○今後の取組

コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置した学校であり、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのか、目標やビジョンを共有し、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育てていくものである。地域とともにある学校づくりを通して、地域の学校への関わりが、理解から協力へ、さらには参画へと膨らみ、子どもや学校が抱える諸課題の解決や地域資源を活用した教育内容の充実などにつながる。多くの保護者や地域の皆さんに学校運営に参画していただき、教育内容の充実を図っていくことができるよう、学校運営協議会でしっかりと議論しながら取り組んでいく。

ウ まとめ

開校2年目の昨年度、1回目のアンケート結果を踏まえ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、また、子どもたちが「学びが面白い」と実感できるように、教育委員会と学校が密に連携し、指導主事が学校を継続して訪問するなど、授業づくりや個に応じた支援などに取り組んだ。

2回目のアンケート結果では、住んでいる地域に関係なく仲間づくりができてきているとともに、友だち関係がうまくいかないといった子どもには、引き続き、個別の支援が必要であることが分かった。

想青学園は、地域とともにある学校づくりのパイロット校として、義務教育学校のメリットとコミュニティ・スクールの仕組みを活かす中で、「かかわる つながる」ことを大切にしたい学校づくりを進めている。独自教科のSOSEI学では、学校運営協議会の委員が学校と地域をつなぎ、内海・沼隈地域の多彩な地域資源を学習素材として、教育内容の充実を図るとともに、地域貢献にもつながる探究学習に取り組んでいる。

また、教職員は、授業実践力を高めるため「広島県叡智学園の社会科ユニットデザインから学ぶ研修」や「STEAM型探究学習の研修」などを受講し、子どもが自ら課題を探究する授業に向けて、教材研究、授業実践、検証、改善等を行っている。

昨年度は、全国から15団体134人の視察があり、学校図書館を始め、人文社

会，理科メディアなど，子どもの興味を喚起する場，高性能パソコンや3Dプリンターを設置しているデジタルラボ等の施設に感動し，子どもが立体模型を制作したり，動画編集したりする姿，学校のあらゆる空間で，疑問を出し合いながら意欲的に学んでいる姿を見て，高い評価をいただいている。

教育委員会は、学校とともに、多様な友だちと学び合える環境だからこそ、すべての子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いをより一層大切にしながら、子どもたちが知っていることを使って考えると、分かることがたくさんあるという感覚を授業の中で積み重ねていけるよう、今後も学びを中心に据えた取組を着実に進めていく。

(2) アンケート集計

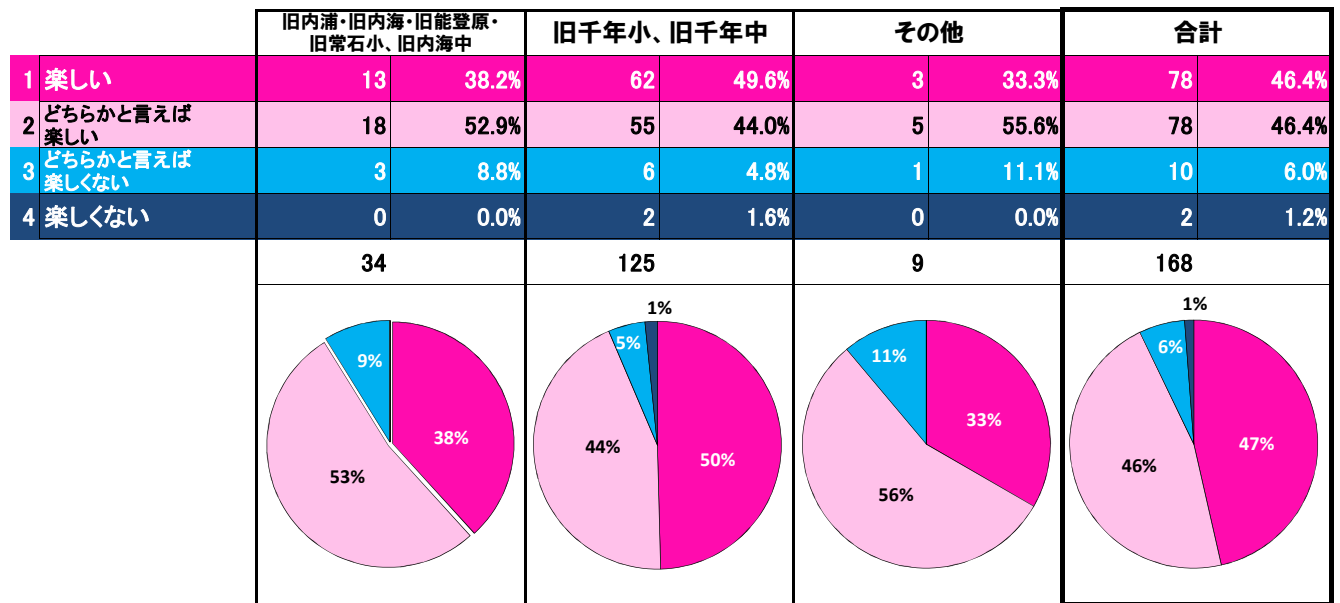
【グラフの見方】

※ 合計168人の生徒が回答しています。

(旧内浦小 0人、旧内海小 6人、旧能登原小 13人、
旧常石小 12人、旧千年小 70人、旧内海中 3人、
旧千年中 55人、その他(学区外) 9人)

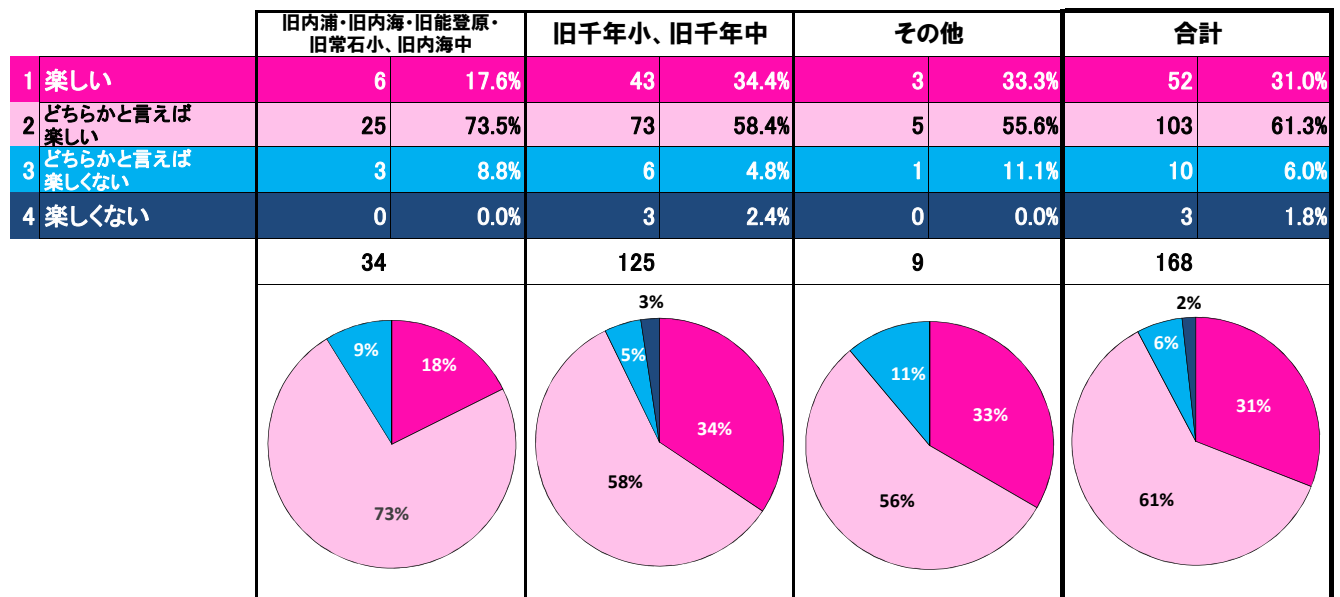
ア 生徒

学校は楽しいですか。



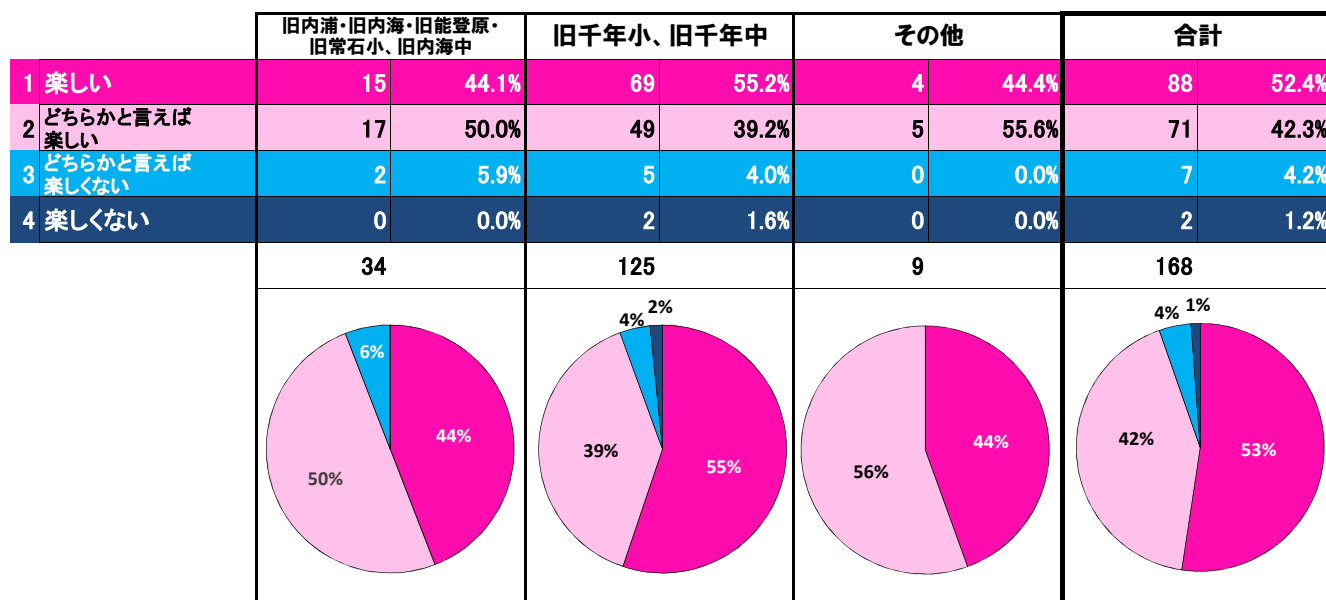
「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した生徒の割合は、全体の93%である。
「楽しくない」「どちらかと言えば楽しくない」と回答した生徒の割合は、全体の7%である。

新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しいですか。



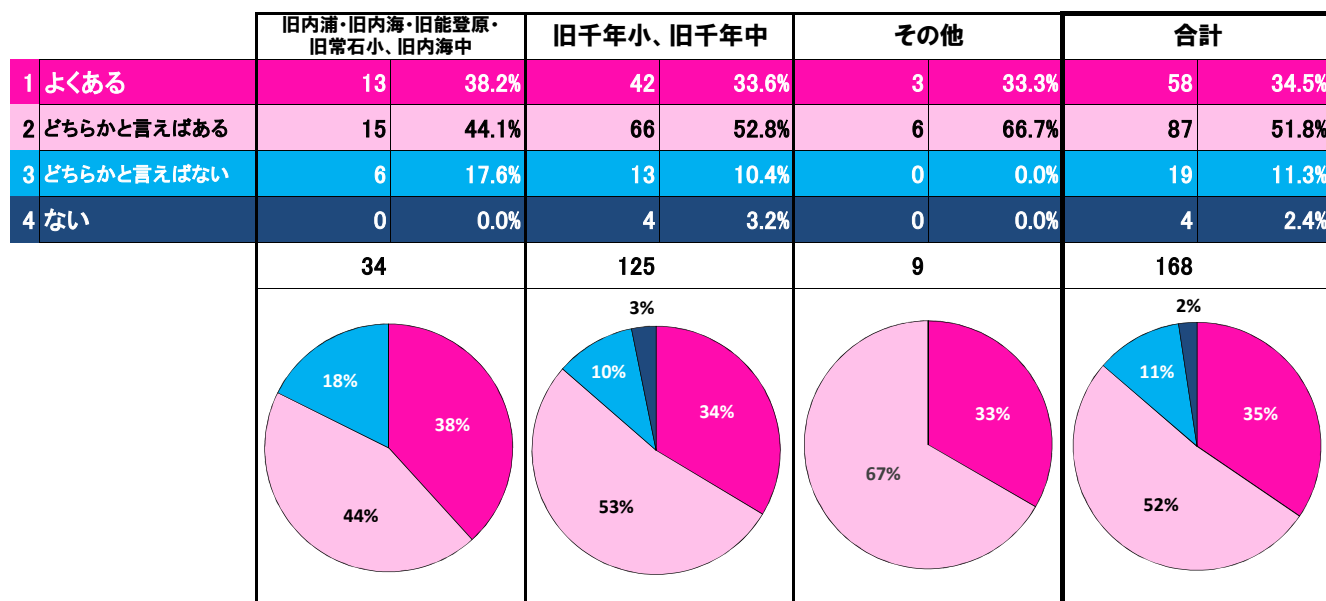
「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した生徒の割合は、全体の92%である。
「楽しくない」「どちらかと言えば楽しくない」と回答した生徒の割合は、全体の8%である。

自分で考えたり、友だちと話し合ったりすることが楽しいですか。



「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した生徒の割合は、全体の95%である。
「楽しくない」「どちらかと言えば楽しくない」と回答した生徒の割合は、全体の5%である。

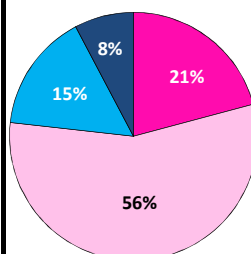
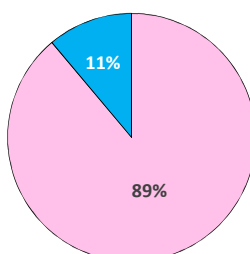
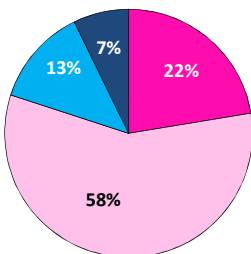
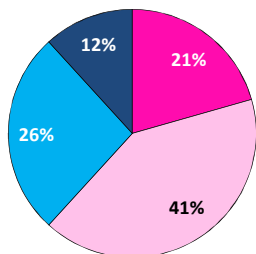
分かった「できた」と実感することがよくありますか。



「よくある」「どちらかと言えばある」と回答した生徒の割合は、全体の86%である。
「ない」「どちらかと言えない」と回答した生徒の割合は、全体の14%である。

1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校についていいなと思うことがありますか。

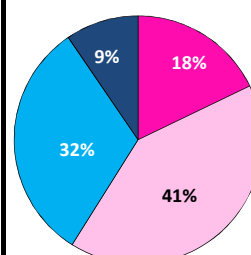
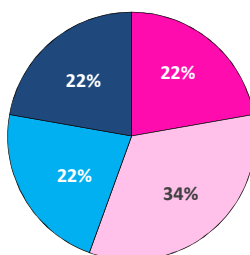
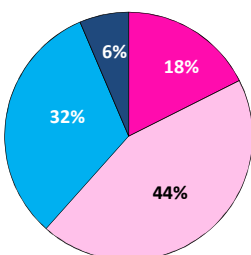
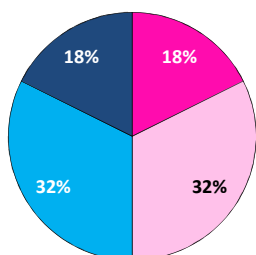
	旧内浦・旧内海・旧能登原・旧常石小、旧内海中	旧千年小、旧千年中	その他	合計
1 よくある	7 20.6%	28 22.4%	0 0.0%	35 20.8%
2 どちらかと言えばある	14 41.2%	72 57.6%	8 88.9%	94 56.0%
3 どちらかと言えない	9 26.5%	16 12.8%	1 11.1%	26 15.5%
4 ない	4 11.8%	9 7.2%	0 0.0%	13 7.7%
	34	125	9	168



「よくある」「どちらかと言えばある」と回答した生徒の割合は、全体の77%である。
「ない」「どちらかと言えない」と回答した生徒の割合は、全体の23%である。

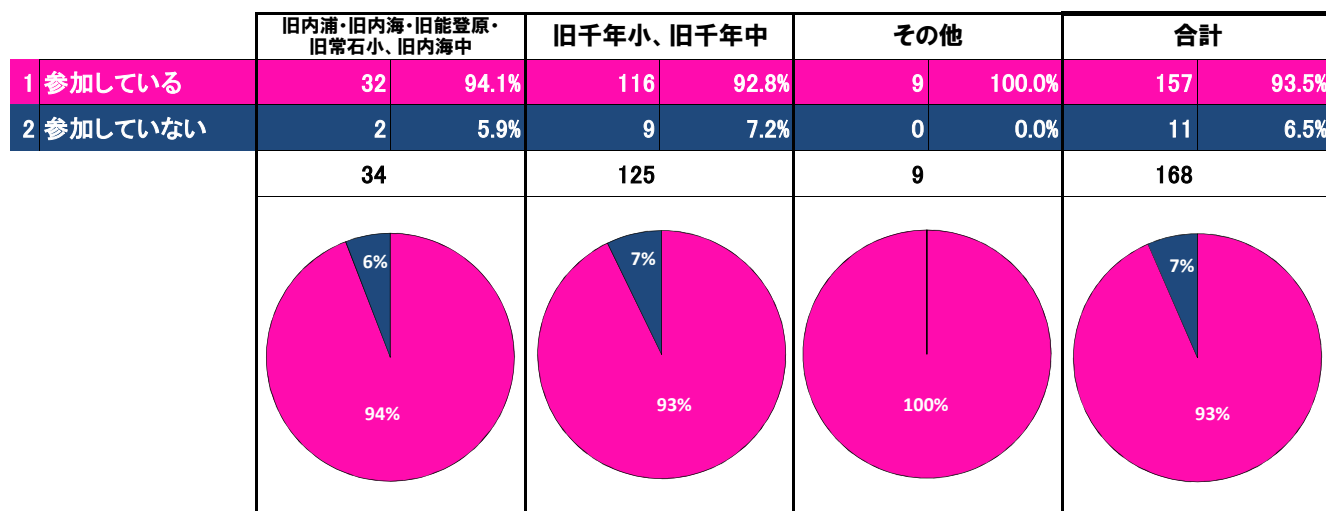
想青学園が大切にしている『つながる』を
学校生活の中で実感することがあります。

	旧内浦・旧内海・旧能登原・旧常石小、旧内海中	旧千年小、旧千年中	その他	合計
1 よくある	6 17.6%	22 17.6%	2 22.2%	30 17.9%
2 どちらかと言えばある	11 32.4%	55 44.0%	3 33.3%	69 41.1%
3 どちらかと言えない	11 32.4%	40 32.0%	2 22.2%	53 31.5%
4 ない	6 17.6%	8 6.4%	2 22.2%	16 9.5%
	34	125	9	168



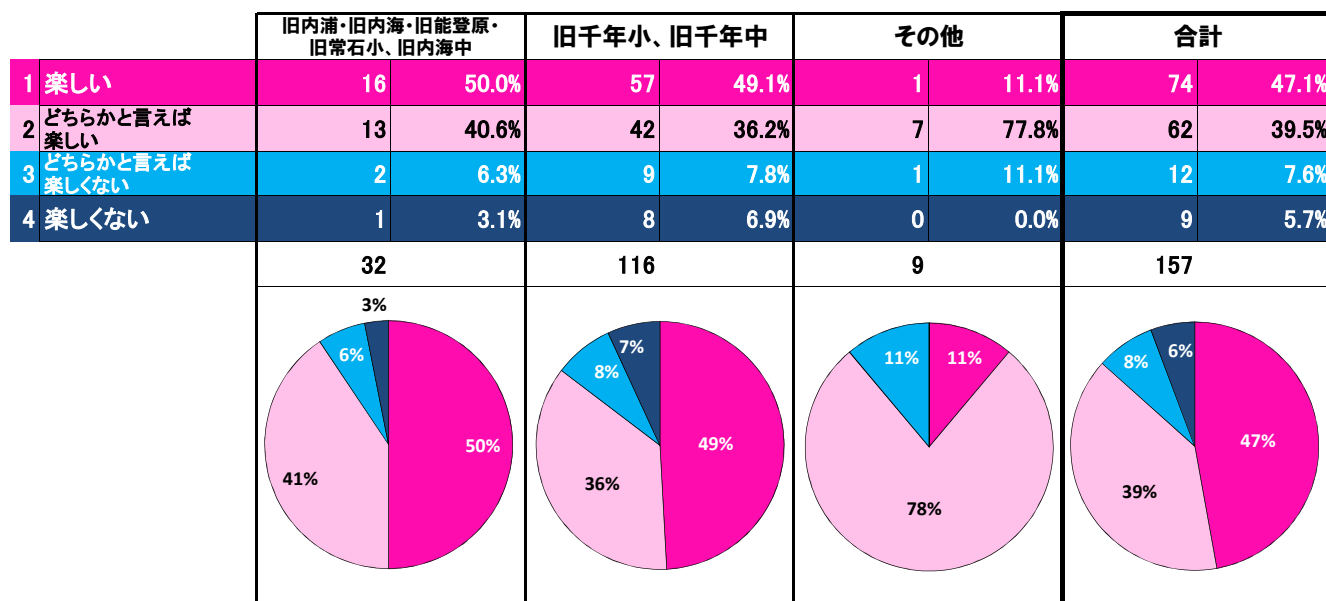
「よくある」「どちらかと言えばある」と回答した生徒の割合は、全体の59%である。
「ない」「どちらかと言えない」と回答した生徒の割合は、全体の41%である。

部活動に参加していますか。



「参加している」と回答した生徒の割合は、全体の93%である。
「参加していない」と回答した生徒の割合は、全体の7%である。

部活動は楽しいですか。



「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した生徒の割合は、全体の87%である。
「楽しくない」「どちらかと言えば楽しくない」と回答した生徒の割合は、全体の13%である。

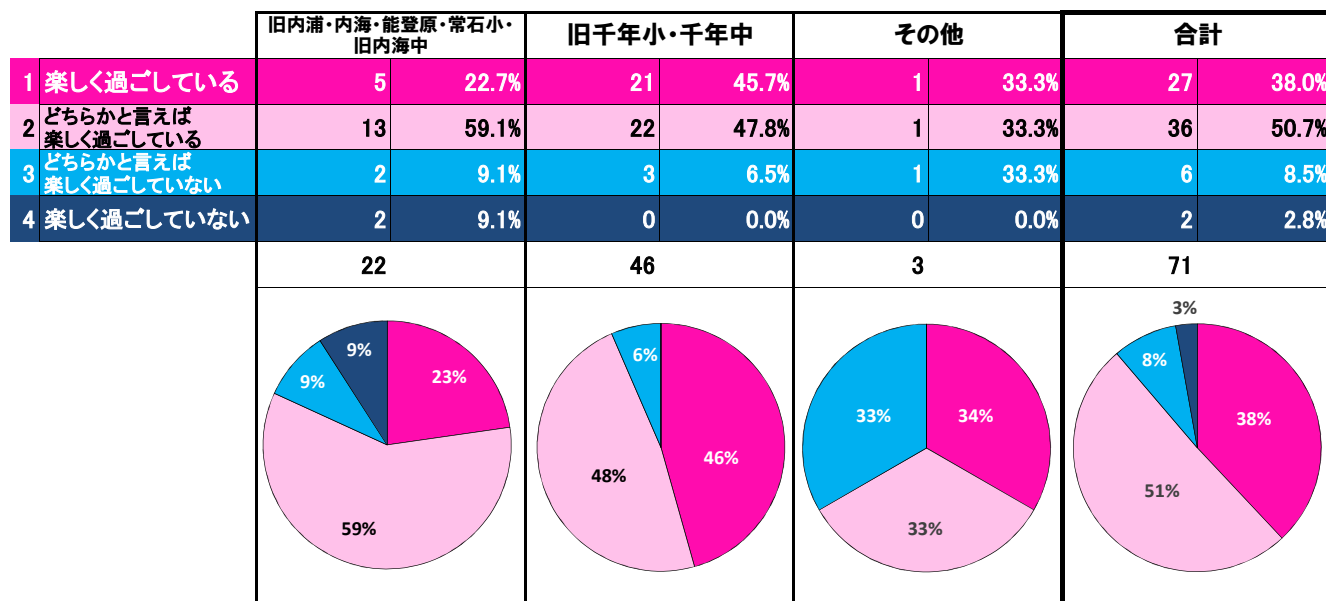
【グラフの見方】

※ 合計71人の保護者が回答しています。

(旧内浦小 0人、旧内海小 4人、旧能登原小 9人、旧常石小 8人、
旧千年小 32人、旧内海中 1人、旧千年中 14人、
その他(学区外) 3人)

イ 保護者

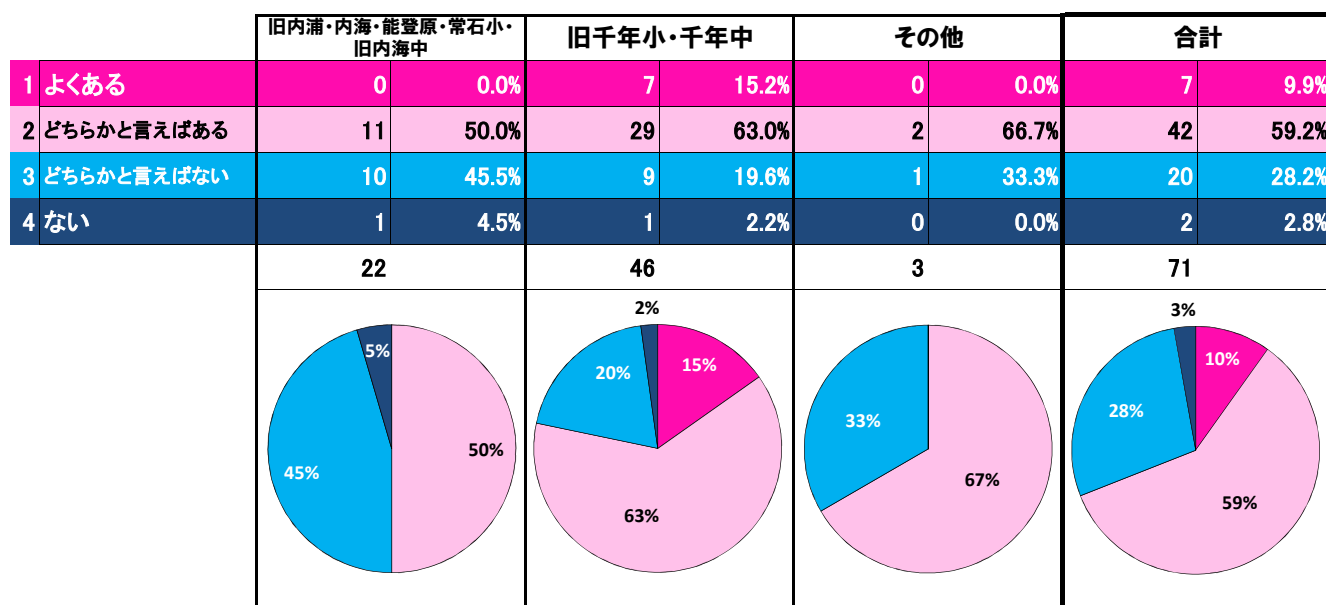
子どもは学校生活を楽しく過ごしていますか。



「楽しく過ごしている」「どちらかと言えば楽しく過ごしている」と回答した保護者の割合は、
全体の89%である。

「楽しく過ごしていない」「どちらかと言えば楽しく過ごしていない」と回答した保護者の割合は、
全体の11%である。

1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について



「よくある」「どちらかとある」と回答した保護者の割合は、全体69%である。

「ない」「どちらかと言えない」と回答した保護者の割合は、全体の31%である。

ウ 主な記述回答

生徒

■ 【全員】学校が楽しい理由

- ・友だちに会って話ができる。
- ・授業も部活も楽しい。
- ・友だちとたくさん学び合い、コミュニケーションを取れるから。
- ・新たな知識を得られることや、友だちとの教え合いや交流を通して将来目指す人物像に近づくことができる。
- ・いろんな先生と勉強できて楽しい。
- ・新しいことを学べるから。
- ・バリエーションがあって、どれもが栄養のことを考えられている給食が毎日たくさん食べられるから。

■ 【全員】学校が楽しくない理由

- ・あまり仲がよくない人といたりすると気まずくなる。
- ・勉強の内容が良く理解ができないし、勉強を教えてって言いづらいから。
- ・授業中にはしゃぐ人がいるから。
- ・勉強や友だちとの関わり方。

■ 【全員】授業についての思いや考え

- ・友だちとの学び合いは、お互いの理解を深めることに繋がる。
- ・班での活動は自分の意見を言える時や、班の人と意見を交流する中で見出した新たな視点が入ってくるからいい。
- ・ずっと教えてもらうだけではなく、自分で考えて応用などを解いたりしたい。
- ・苦手な教科になるとやる気が無くなるので授業中でもっと面白い要素を入れてほしい。
- ・もっと積極的に発表させた方がいい。
- ・授業中の私語が多い。
- ・グループワークなどを増やして、クラスの様々な意見をもっと知れるようにしてほしい。
- ・理解するまで時間がかかる時があるので、生徒の意見も聞いてほしい。
- ・もっと練習問題など増やしてほしい。
- ・進むスピードが早い。
- ・ペアなどで活動するとき、同じペア以外に様々な人と関わりたい。

■ 【全員】1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、いいなと思うこと

- ・関わったことのない人やみんなと関わることができるから。
- ・上級生が下級生にお手本を見せられるから。
- ・1年生から9年生までが団結して一つのことをしているのがいい。
- ・授業で学んだことを他学年に教えることで、いい経験になり学びが深まる。

- ・前期の子がいるので成長したなと思える。
- ・学校内がにぎやかだから。前期のときに習ったものをメディアブースで見られるから。
- ・幅広い学年が交流することで、年齢に合わせた話し方や聞き方などの勉強になる。広い視野で生活を行えるところがいいと思う。
- ・ほとんどの人が挨拶を積極的に行っている。

■ 【全員】 1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、いいと思わないこと

- ・前期と後期でそれぞれにいい影響もあるけど悪影響も多いし統一感が出ない。
- ・授業時間がずれていて、うるさいときがある。
- ・学年の幅が広すぎるためトラブルが起きてしまっていると思うから。
- ・小さい子の面倒を見たりするのが苦手だから。
- ・テスト中とか授業中に小学生が上の階に上がってくる音がうるさい。

■ 【全員】 想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学校生活の中で実感すること

- ・前期と後期で一緒に楽しめる遊びやイベントがある。
- ・困っている人がいたら、すぐに助ける人がいる。
- ・S O S E I 学では校内だけでなく、地域と関わる授業がある。
- ・授業などで前期課程の人と関わったりするとき。
- ・前期課程の子が廊下で会々と、声をかけてくれる。
- ・前期課程と後期課程がそれぞれに挨拶をしているところを見かけたとき。
- ・1年生と一緒に給食を食べたこと。
- ・授業で他学年の教室に行って発表するとき。
- ・1階の体育ブースで他学年と記録勝負をして楽しんだこと。

■ 【部活動に参加している生徒】 部活動が楽しい理由

- ・自分のスキルがちょっとずつ向上しているのを感じられたから。
- ・自分の好きなスポーツができるから。
- ・お互いを高め合うことができた。
- ・新しいことに挑戦でき、できなかったことができるようになったから。
- ・仲間と協力して練習をし、上達し試合に出ることができたから。
- ・今までやったことのない体験で学ぶことが多かった。
- ・クラスや学年を超えて、一つの作品に協力して取り組めるから。

■ 【部活動に参加している生徒】 部活動が楽しくない理由

- ・練習が面白くない。
- ・自分は本気でも、他の人が本気じゃない。
- ・部活の数が少なく、やりたい部活がない。
- ・元々の人数が少ないのに参加してくれる人が少ない。声をかけても来てくれない。
- ・少し大変。厳しすぎる。

■ 【全員】想青学園で学ぶようになってから気が付いたこと（変化）、自分でも努力したこと

- ・人と関わるが増え、コミュニケーションが取れるようになった。
- ・低学年との関わりが苦手と思っていたが、学校生活を共有することで関わることの楽しさが分かった。
- ・いろんな学年と関わることで、いろいろな価値観が生まれる。
- ・人数が増え、年齢の幅も広まったことでどのような話し方なら伝わるか、困っている人はいないかなど、より一層周囲のことを考え行動できるように努力した。
- ・S O S E I 学などで地域の良さを自らアピールしていくことで地域の活性化につながることに気づいた。
- ・人間関係を良好に保つこと、意見を言うことを努力した。
- ・成績を気にしながら授業を受けるようになった。
- ・自身が苦手な教科でも勉強し、その教科の知識がついて実力がついてきたこと。
- ・様々なことに積極的に取り組むようになったこと。
- ・前期課程の手本となるように頑張った。
- ・誰かに負けないように頑張ったり、なにか新しいことに挑戦してみたりした。
- ・クラスがよりよい方向になるように自分の役割を全うしている。

■ 【全員】困っていること

- ・校則を守っていない人がいる。
- ・授業をまじめに受けてない人がいる。
- ・もっと他の学年と関わる機会があつたらいい。
- ・トイレでたくさんの人が話をしていてトイレに入りにくかった。
- ・もっと授業を大事に思えるような雰囲気で先生の話を聞きたい。
- ・勉強が分からない。
- ・最近部活の空気が悪いこと。
- ・駐輪場と靴箱が遠い。

■ 【9年生の旧内海中の生徒】旧中学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなったが、どのように感じているか

- ・トラブルが起こったり、とっつきにくい人もいたりするけれど、友だちが増えて楽しい。
- ・自分と合わない人や合っている人などがいて、みんな個性があふれているからいいなと思った。
- ・内海中学校ではできなかった授業などもできた。

保護者

■ 【全員】子どもが学校生活を楽しく過ごしていると思う理由

- ・学校での出来事や友だちの事などをよく話してくれる。
- ・勉強は充実しているように見受けられるし、友だちとも楽しく過ごしている様子。
- ・こうしなさい等の窮屈さを感じないから。
- ・困ったことなどを聞かないから。
- ・休まず嫌がらず学校へ行くから。
- ・新しい学校で、他学年との交流が良いと感じたから。

■ 【全員】子どもが学校生活を楽しく過ごしていないと思う理由

- ・友だちグループができて中へ入りきれず、学校の気質に馴染みきれていない。
- ・昨年より不登校気味になっているため。

■ 【全員】1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、いいなと思うこと

- ・前期課程の児童は後期課程へのイメージを持ちやすく、ギャップも少なくスムーズに後期課程へ移行でき、後期課程の生徒にとっても前期課程の子たちと接することで視野を広く持てる。
- ・小さい学年に関わることで優しさや思いやりなどが育つ。
- ・違う年齢の子どもが集まってくるため、それぞれの立場に立った考え方ができる。
- ・上級生を見て、良いことも良くないことも学び、考えて行動するから。
- ・前期課程の手本になるよう努力していること。
- ・学年関係なく、行事や給食、遊びなどで交流できること。
- ・多くの学年で協力し合えること。
- ・賑やかで楽しく、つながりを感じることができる。
- ・入学式、卒業式が1度でいいこと。きょうだいがいるが、参観日や運動会への出席に都合をつけやすいこと。一度に子どもの様子を見ることができること。
- ・年齢の離れている子どもの保護者との交流が増えた。
- ・一人っ子、近所に小さい子どもがいないが、学校で交流でき、可愛いと言っている。

■ 【全員】1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、いいなと思わないこと

- ・体育祭など出番が少ないのに、開催時間が長い。
- ・学習発表会や体育祭（運動会）を前期・後期一緒に実施するため、学校行事の内容が薄くなった。
- ・環境の変化がない期間が長くなるので、気持ちの切り替えが難しくなるのではと思う。
- ・体育祭（運動会）、音楽祭の人数が多すぎて楽しくない。
- ・授業中うるさい。
- ・年齢が離れすぎていると価値観が合わない。
- ・後期課程の容姿やふるまいを真似している前期課程の子どもたちがいる。

■ 【全員】教育活動（授業、学校行事等の取組）について、良いと思うこと

- ・好奇心を揺さぶられる教育内容で、自発性を伸ばしてもらえそう。
- ・特にSOSEI祭は、地域と一体になって作り上げ、大いに盛り上がった。
- ・小中一貫校で、全学年一緒に行事が出来る。
- ・行事がいっぱいあり、子どもの学校の様子が見られてよい。
- ・電子ピアノを置くなど、子どもたちの意見を取り入れているところ。
- ・他学年と協力し合うことができています。
- ・不登校の子どもに保健室の先生から電話をいただき、子どもと話をし、登校を促してくれた。本当に救われた。

■ 【全員】教育活動（授業、学校行事等の取組）について、課題と思うこと

- ・せっかく前期と後期で同じ敷地、同じ校舎なのにふれあいや交流が少ない。
- ・運動会を前期課程と後期課程一緒にするのは無理がある。
- ・発表会も運動会も一緒に開催のため、学校行事の内容が薄くなった。
- ・体育祭など、人数が多すぎて見ても楽しくない。
- ・後期過程の生徒が校則を守らないから、前期課程の児童に影響がある。
- ・年が離れすぎていると価値観が合わなすぎる。
- ・後期課程の容姿、ふるまいを真似している前期課程の子ども達がいる。
- ・小中の先生方が子ども達の学力をお互いフォローしたら良いと思う。例えば後期になっても、前期の先生が補習をしてくれるなど。

■ 【全員】想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、これまでに感じられたエピソード。

- ・SOSEI祭など、児童生徒がみんなで一つの事に取り組む姿や、それに私たち親もかかわることができたこと。
- ・学校行事への参加がオープンであること。
- ・能登原とんどへの参加や地元企業との関わり。
- ・9年生と1年生がいっしょに給食を食べたこと。
- ・低学年の子の名前を覚えて帰ってきて、その子にも自分の名前を覚えてもらったと喜んでいたこと。
- ・部活動に6年生が参加して、部活動が本格的に始まる前に交流ができてよいと思った。
- ・他学年との交流があること。

■ 【全員】想青学園で学ぶようになって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、そのとき保護者がされたかわりなど。

- ・課題にしっかり取り組めるようになり、友だちがたくさんでき、自分の気持ちもはっきり言えるようになり、思いやりの気持ちが持てるようになってきている。
- ・下級生に発表することによって、自分の意見を分かりやすく表現できるようになった。
- ・苦手なことにも挑戦するようになった。

- ・上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生を敬う態度が自然にできている。
- ・課題をクリアして達成感を感じることは中学生らしくなったと思う。担任の先生とも学校での様子を教えてもらうなど、しっかりと連携がとれるので安心できる。
- ・どんなことでも興味がわかれば、自分で調べ追求するようになってきた。
- ・先生に自宅に来ていただき、少しずつ前を向こうとする我が子に少しずつ関わってきたことが今になっていると思う。先生の声掛けで、登校出来たこと。
- ・人間関係に苦労したため、先生に相談しながら乗り越えた。
- ・想青会執行部に入り、子どもは、人前に立ち発表するにはどういった準備をして、どのような人間にならないといけないのかを学んだと思う。発表のための原稿の下準備や他の委員達の意見をまとめるための自分の振る舞いなど、全ては完璧ではなかったと思うが成長したと思う。

■ 【全員】今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと

- ・学校の特色が外部にしっかり伝わるといい。
- ・先生には、主体的に学ぶ姿勢をフォローしてほしい。無理と言われたことで自分の意思で進むことができないことがある。
- ・先生に言っても分かってくれないと初めから諦めの姿勢になること。
- ・一部生徒の風紀の乱れが周りに及ぼす影響が心配。
- ・授業内容が理解できないまま次に進むことがある。進路が心配なので進路指導をしっかりしてほしい。
- ・参観日などの駐車場管理。職員が誘導していないので危険がある。
- ・校則が厳しくなったところ。
- ・クラブ活動の時の生徒の送迎の方法をバスにするなど何か考えて欲しい。

■ 【9年生の旧内海中の生徒をもつ保護者】旧中学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなったが、どのように感じているか

- ・人間関係を築くことが大切。

■ 【全員】コミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）について、教育活動を充実させるため保護者（地域）としてできること、また、子どもたちの学びにどのようにかかわっていききたいか。

- ・学校行事で地域の人と一緒に学校周辺、通学路を清掃するなど、地域参加の親子イベントがあれば、先生、生徒、地域の人とより親密になると思う。
- ・子ども達が安全に学校生活を出来るように地域全体で見守り、道路などの草刈りをし、安全に通学できるように支えたい。
- ・子どもたちの学力向上のため、放課後や土曜日に寺子屋を開く。
- ・学校の方向性が具体的に理解できていくと、もう少し関わりやすくなると思う。
- ・部活動や深く学びたいと思う分野のフォローを地域全体でできたらいいと思う。
- ・参観日や懇談にできるだけ参加し、学校や先生の考え方を知り、それを自分の子どもへ分かりやすく伝える。

- ・野外学習など、前期課程見守りなどが必要な際には、保護者だけではなく、地域も見守りなどの関わりを持てたら良いと思う。
- ・保護者が参加する形の参観日してほしい。
- ・S O S E I 祭に参加して、地域の協力がとてもありがたく、子どもたちが得たものもとても大きかったと思うので、ぜひ続けて協力をお願いしたい。地域に貢献できるようなボランティアなどを、学校として行っていけばいいと思う。
- ・親の職場見学をしたらどうか。

4 アンケート内容

想青学園（後期課程生徒）

◇学校生活についてのアンケート（生徒対象）

名前（記入）・学年と旧学校名（選択）

このアンケートは、皆さんが、想青学園で楽しく過ごしているか、困っていることはな
いかを教えてもらうために行うものです。

これからの取組に活かしていきますので、思ったとおりに教えてください。

◆学校について

《全生徒》

○学校は楽しいですか。（選択肢 4 つ）

楽しい・どちらかと言えば楽しい・どちらかと言えば楽しくない・楽しくない

★楽しい・どちらかと言えば楽しい を選択した生徒への問

○楽しい理由を教えてください。（記述）

★どちらかと言えば楽しくない・楽しくない を選択した生徒への問

○楽しくない理由を教えてください。（記述）

◆授業について

《全生徒》

○新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しいですか。（選択肢 4 つ）

楽しい・どちらかと言えば楽しい・どちらかと言えば楽しくない・楽しくない

○自分で考えたり、友だちと話し合ったりすることが楽しいですか。（選択肢 4 つ）

楽しい・どちらかと言えば楽しい・どちらかと言えば楽しくない・楽しくない

○「分かった」「できた」と実感することがよくありますか。（選択肢 4 つ）

よくある・どちらかと言えばある・どちらかと言えばない・ない

○授業について、思いや考えがあれば、自由に書いてください。（記述）

◆義務教育学校について

《全生徒》

○1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがありますか。（選択肢 4 つ）

よくある・どちらかと言えばある・どちらかと言えばない・ない

★よくある・どちらかと言えばある を選択した生徒への問

○いいなと思う理由を教えてください。（記述）

★どちらかと言えばない・ない を選択した生徒への問

○いいと思わない理由を教えてください。（記述）

○想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学校生活の中で実感することがありますか。

(選択肢4つ)

よくある・どちらかと言えばある・どちらかと言えばない・ない

★よくある・どちらかと言えばある を選択した生徒への問

○ある場合は、そのエピソードを教えてください。(記述)

◆部活動について

《部活動に所属している(していた)生徒》

○部活動は楽しい(楽しかった)ですか。(選択肢4つ)

楽しい・どちらかと言えば楽しい・どちらかと言えば楽しくない・楽しくない

★楽しい・どちらかと言えば楽しい を選択した生徒への問

○楽しい(楽しかった)理由を教えてください。(記述)

★どちらかと言えば楽しくない・楽しくない を選択した生徒への問

○楽しくない(楽しなかった)理由を教えてください。(記述)

◆再編について

《全生徒》

○想青学園で学ぶようになってから気が付いたこと(変化)、自分でも努力したことなどを教えてください。(記述)

○今、困っていることがあったら教えてください。(記述)

《旧内海中の生徒(9年生)》

○前の学校よりも学校の規模(集団規模)が大きくなって(友だちの人数が増えて)、どのように感じているか教えてください。(記述)

◇学校生活についてのアンケート（保護者対象）

名前（任意）・子どもの学年と旧学校名（選択）

2022年度（令和4年度）に開校した想青学園は、子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いを大切にしながら、一人一人の内発的動機に基づいた学力（認知・非認知能力）の向上を追求し、多様な友だちと学び合える環境を活かした授業づくりに取り組んでいます。

子どもたちの様子や保護者の思いを把握する中で、課題への対応など今後の取組に活かしていくため、今年度もアンケートを実施します。

いただいた御意見は、アンケートの目的以外には使いません。御協力よろしくお願いいたします。

◆学校生活について

《全保護者》

○子どもは学校生活を楽しく過ごしていますか。（選択肢4つ）

楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしていない・楽しく過ごしていない。

★楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている を選択した保護者への問

○楽しく過ごしていると思う理由を聴かせてください。（記述）

★どちらかと言えば楽しく過ごしていない・楽しく過ごしていない を選択した保護者への問

○楽しく過ごしていないと思う理由を聴かせてください。（記述）

◆教育活動について

《全保護者》

○学校の教育活動（授業、行事等の取組）について、良いと思うことや課題と思うことなどを教えてください。（記述）

- ・良いと思うこと
- ・課題と思うこと

◆義務教育学校について

《全保護者》

○1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがありますか。（選択肢4つ）

よくある・どちらかと言えばある・どちらかと言えばない・ない

★よくある・どちらかと言えばある を選択した保護者への問

○いいなと思う理由を教えてください。（記述）

★どちらかと言えばない・ない を選択した保護者への問

○いいと思わない理由を教えてください。（記述）

○想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、これまでに感じられたことがありますか。ある場合は、そのエピソードを教えてください。（記述）

◆再編について

《全保護者》

○想青学園で学ぶようになって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、そのとき保護者がされたかかわり（応援や励まし、教員への相談）などを聴かせてください。（記述）

○今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいことがあったら教えてください。（記述）

《旧内海中の生徒（9年生）の保護者》

○前の学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなりましたが、どのように感じているか聴かせてください。（記述）

◆コミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）について

《全保護者》

○想青学園は、コミュニティ・スクールとして、学校と地域が連携・協働し、学校教育目標「学びあい 育ちあう」のもと教育活動を推進し、子どもたちのより良い成長を促していきます。今年度も学校運営協議会において、SOSEI 学の充実のために、意見や提案を出し合いました。

・教育活動を充実させるため、保護者（地域）としてどんなことができると思いますか。また、子どもたちの学びに、どのようにかかわっていきたいですか。（記述）